

スマイリングホスピタルジャパン第一回研修&交流会

2016年3月26日 於：日赤医療センター



2016年3月26日(土)、日本赤十字医療センターの協力により同講堂において、第一回スマイリングホスピタルジャパン研修&交流会を開催いたしました。SHJ 現況報告の後の研修会では病弱教育専門家、病棟保育士、そして小児脳幹部グリオーマ(神経膠腫)患者家族からの講演、続く交流会では各地区からの活動報告、今後の予定の発表がありました。19:00からの懇親会では一気に気分もほぐれて和気藹々、初めて一堂に会した集まりで交流を深めました。

13:30 代表挨拶&現況報告等

13:40 講演会

1. 13:45~14:55

「ひとりじゃないよ～ぼくが院内学級のこどもたちに教えてもらった大切なこと～」

副島賢和氏 昭和大学大学院保健医療学研究科准教授
品川区立清水台小学校さいかち学級担任

2. 15:05~15:45

「病棟でのボランティア活動～医療と小児の発達の立場から～」

赤津美雪氏 日赤医療センター小児病棟保育士

3. 15:45~16:05

「～小さな命は輝いている～わたしたちの目に見える症状と見えない症状～」

矢田美麗氏 小児脳幹部グリオーマ(神経膠腫)患者家族
SHJ千葉地区コーディネーター

16:15 各地区活動紹介

18:05 事務連絡等

19:00~21:00 親睦会 於：日赤医療センター1階レストラン「川菜」

出席者

北海道地区 6名

東北地区 4名

関東地区 33名

静岡地区 4名

関西地区 5名

計 52名

(アーティスト/
コーディネーター/
アシスタント/事務
局/サポーター)



昭和大学大学院保健医療学研究科准教授 副島賢和氏からは、「ひとりじゃないよ～ぼくが院内学級のこどもたちに教えてもらった大切なこと～」の演題で、院内学級担任の立場からお話を伺いました。病児の心理と彼ら自身の感情の扱い方を踏まえたケアする立場としての関わり方を学びました。子どもたちにどう寄り添って関わ流べきか、それによって子どもたちが心を開いていく過程をわかりやすく講義されました。会場からは活発な質問や感想が出たり、実際に赤鼻をつけて子どもたちにどう接するか例を幾つか見せていただいたりして、真剣な中にも笑いあり、涙ありの充実の1時間でした。



日赤医療センター小児病棟保育士 赤津美雪氏からは実際の SHJ の活動に丸3年立ち会ってきた中で見てきた、子どもたちや病棟の変容をお話してくださいました。スマイリングの活動がある日とない日とでは子どもたちの様子に違いがあること、毎週定期的な活動があるために生活に見通しを持つことができていることなど、また、単調な入院生活では、親御さんでもなかなか気づかない子どもの成長ですが、音楽や創作活動中に見せるふとした変化により「発達」を実感できる、というお話もありました。私たちの活動がとても喜ばれ、子ども、ご家族、そして医療者にとっても有用であることを現場から伝えていただき、活動の価値に改めて確信を持つことができました。



小児脳幹部グリオーマ（神経膠腫）患者家族であり、SHJ 千葉地区コーディネーターの矢田美麗氏からは、お子さんとの闘病生活を通じた経験を踏まえての講演でした。症状のためにバギーでの生活になった時の物理的バリアと社会生活における心理的困難について語られました。また、実際に現場で出会う子どもたちの様子から、関わる立場が察することのできる症状と受けている処置についての説明もありました。病棟で活動する際、鼻や喉にチューブを付けていたり頭を固定していたりという子どもたちにどういったことに注意して関わればいいのかなど不安な点が多いものですが、具体的な例を挙げながら配慮すべき点がわかりやすく述べられ、活動者の不安も軽減できたように思います。「命はどのような状態であっても輝いている。アーティストの届けている本物のアートは、その輝きにさらに磨きをかけるものだ」というまとめの言葉は、活動者が意気込みを新たにす、素晴らしいメッセージでした。

～地区報告風景～



～懇親会風景～

各地区からの報告はショートパフォーマンス、心に残るエピソードや子どもたちからのメッセージプレゼントの紹介などそれぞれ趣向を凝らしたものでした。場所を変えての懇親会では、研修会での緊張感が一気にほぐれて和気藹々、さすがプロのアーティスト集団！自然にライブがあちこちで始まり、最後は全員参加型のリズムサークルでおひらきとなりました。



～これから～とても勉強になった、是非来年も！という参加者の声に手応えを感じた初めての研修&交流会でした。活動のさらなる充実と発展のために学びと意見交換の会を毎年行って参ります。